



# 農業委員会だより

発行 中野市農業委員会

編集 農業委員会だより編集委員会

## 農業委員会だよりによせて

会長 中村 秀人



今春より会長に就任したところでありますが、平素は農業委員会活動に際しご理解ご協力頂いております事に厚くくお礼申し上げます。  
最近、異常気象が常態化するなかで、被害に遭われた方々には、お見舞い申し上げます。本年の農産物については全般に順調な単価で推移していますが、依然、担い手不

足や高齢化や遊休荒廃地の増加傾向が見られます。  
懸案のTPP交渉に於いては、米国のTPA法案が成立後に大きく動くと思われましたが、一部対立が解けず合意は見送られ情勢は不透明化しております。また国内では、改正農協法に併せ改正農業委員会法が成立し、次期農業委員は公選制から市町村長の任命制に、委員の過半数は認定農業者、委員数縮減となる一方、現場活動を担う農地利用最適化推進委員の新設により

農地利用の最適化推進に全力を挙げるとしています。会としてはこれらの動向に注視し系統組織と連携しながら地域農業の振興発展に寄与していきたいと考えております。  
また、農地・農政・振興の各部会の取り組みを通じて「農地を守る」、「農地を活かす」、「農声を発信する」活動を強化していく所存であります。引き続き皆様の倍旧のご支援ご厚情を賜ります様お願い申し上げます、あいさつに代えさせていただきます。

### 第5代 中野市農業委員構成委員名簿

会長	中村 秀人
会長代理	小林 成雄

#### ○部会構成 (議席番号順)

	農地部会	農政部会	振興部会
部会長	中村幸次郎	清水 一夫	阿部 正博
部会長代理	小林 利雄	清野 信之	浅野 清
委員	渡辺 義夫	奥津 一仁	櫻井 興一
〃	小林 豊	金井 光正	山田 一茂
〃	高橋 直志	中島 源	有賀 勉
〃	市村 安友	小林 成雄	保科 政次
〃	柳沢 和人	春原 助義	宮島 包義
〃	山田 喜英	牧野 貢	小林 正迪
〃	傳田 和子	小林 秀子	中島 守成
〃	白井 信幸		芦澤 孝幸
〃	白井 理久		
〃	中村 秀人		



▲第5代農業委員の皆さん

## 農地部会の活動

### 農地部会長

中村 幸次郎



農業は食の安全・安心のほか、農地・水・環境保全と云った大切な役割を担っておりま

今日の農業は、農産物の価格の低迷、就農者の高齢化、担い手不足などにより、年々遊休荒廃地が増加しています。この中で、政府が進めている農地集積や集約化を図るための農地中間管理事業や人・農地プランが、中山間地の多い当地域に当てはまるかを考えなければなりません。今、かけがえのない農地を守るために、関係機関と連携して、農地パトロールや農地を守る運動など、地域農業の

支援のため国・県・市の施策支援を活用して農業の活性化を図ります。

今年度の農地部会の事業計画は次のとおりです。

- ①農地法の指導徹底
- ②無断転用の防止活動
- ③農地パトロールの実施
- ④遊休荒廃地の解消に向けた行政との連携および指導
- ⑤その他として必要とする活動・会議の実施

関係各位のご協力をお願い申し上げます。

## 振興部会の活動

### 振興部会長

阿部 正博



【新規就農者に期待する】  
今、明治維新以来の改革が断行されている。憲法で示す健康で文化的な最低限の生活

を支えきれなくなっているという事なのだろう。

そんな中、新規就農者支援協議会に、農業改良普及所・JAの皆さんと共に出席する機会があった。大きな投資をして施設型農業に取り組む方家族の高齢化に伴いUターンした方などがいたが、その中に一人、故郷の現状や思いを熱く語る青年が、とても心に残った。新規就農者は各々にこれからさまざまな試練が待ち構えていることだろう。そ

れを乗り越えて地域の担い手として頑張ってほしい。

農業は、地域と一体のものであり、伝統・文化・風土の上に成り立っているものである。成長産業が持ち上げられて右往左往することなく、自然を観る目を養いながら環境負荷の少ない持続する農業を目指していただきたい。

農業委員会の振興部会が遊休地を利用して育てたソバも、可憐な花を咲かせている。ソバの花と、ミツバチが忙しく飛び交う光景は、行きかう人々の心を和ませていることだろう。

## 農政部会の活動

### 農政部会長

清水 一夫



農政部会が中心となって行う活動の一つに、市長との農政懇談会があります。

この目的は、市農業の振興、農村の活性化を図ることにあります。

今年度も6月29日に開催し、委員から活発な質問・要望を行いました。



▲農政懇談会の様子

内容につきましては、「遊休荒廃農地対策」・「農地中間管理事業の活動状況」・「売れる農業推進室の事業推進」などがあり、これに対して市長および担当部局である経済部から前向きな答弁がありました。委員の中には熱心さのあまり、制限時間をオーバーして発言する場面もあり、有意義な懇談会になったと思います。

次に、毎年恒例のシヨンシヨン祭りに参加しました。平均年齢が比較的高いにもかかわらず、ほぼ全員に近い参加者の下、一致団結して加齢な踊りを披露しました。祭りを通して委員同士の距離もぐっと近づき、行き交う地域の人たちとの親交も深められたのではないかと思っております。

今年度の農政部会事業計画は次のとおりです。

- ①認定農業者の普及推進
- ②農業者年金への加入推進
- ③全国農業新聞の購読普及
- ④市内・近隣市町村への視察研修
- ⑤その他必要な活動



# 農業委員会研修視察の報告

白井 信幸



▲高尾ぶどう生産組合視察の様子



▲横浜植物防疫所羽田空港支所の様子

8月20日から21日に農業委員会の研修視察が行われ、東京の銀座NAGANO、横浜植物防疫所羽田空港支所、横浜税関、東京都稲城市の高尾ぶどう生産組合、埼玉県日高市のサイボクハムと多岐にわたり視察を行いました。

紙面の都合上、特に印象が強かった2箇所を紹介します。

1箇所目は、「横浜植物防疫所羽田空港支所」で、海外から日本に入りにする病虫害の監視をしています。病虫害は一度侵入したらそ

の根絶が難しいことは歴史が物語っており、私たちも実感するところです。近年はグローバル化が進み、多くの国から多種の農産物のほか、旅行者の増加があり、その危険性も増えています。

また、国内の病虫害のまん延を防ぐ対策も担っていることでも知りました。

2箇所目は、東京都稲城市の高尾ぶどう生産組合長の長坂さん宅にお邪魔したこと

で、「高尾」は巨峰の実生改良種で、巨峰よりやや小さく甘み・酸味が程よくあり食味は濃厚で、栽培管理が難しく研究を重ねながら現在は、贈答高級ぶどうのブランドとして定着しました。

首都圏に近いという利点を十分に生かした都市型農業の典型であり、経営状況をお聞きしたところ、一般農家で反収250〜300万円。利益率は50%程で、後継者問題など大きな問題もなく、農業委員からは「いいね」、「これなら後継者は出るよね」の声があちこちから出ていました。ブランド化、販売方法などの重要性を改めて認識した次第です。農業委員として有益な研修視察ができました。

# 北信州農村女性のつどいに参加して

つどいに参加して

小林 秀子

8月26日に「北信州農村女性のつどい」が飯山市公民館において開催されました。

講演会が始まる前の昼食フリーマーケットには、11団体に参加しました。お馴染みの顔ぶれが並ぶ中で、お目当ての品物を購入、昼食を共にしながら地域を越えた旧友達との話に花が咲きました。

講演会は、漬物の「木の花屋」で知られSBCラジオにも出演されている宮城商店の宮城恵美子さんが講演をされました。イメージ通りの物静かでありながらパワーを感じる女性でした。

事例発表は4団体、有限責任事業組合「うさぎ追いしふるさと本舗」、伝統野菜坂井芋研究会、飯山食文化の会の「走る農家レストラン」、JA中野市青年部長丘支部の「遊休荒地ゼロへの挑戦」、どの発表もさすがで、良い交流と研修ができました。

全体を通して共通している事は、小さな事でも出来る事を続けていくこと、そうする



▲農村女性のつどいの様子

事により人が人を連れてくる、思いが思いに集まってくることでした。宮城恵美子さんの印象に残った言葉、「はからずも自分が決めた人生、ならばその中で前をみて進みましょう。出来る、出来ないではなく、やってみる。」今年もたくさんさんのパワーをもらい帰路に着きました。

北信五市農業委員研修会に出席して

奥津 一仁

北信五市農業委員が相集い、業務知識の取得や連絡強化、また親睦を図る目的で、8月27日に長野市のホテル国際21において、北信五市農業委員研修会が開催されました。

研修会では、長野県農業開発公社理事長中村倫一さんによる、「農地中間管理事業の現状と対応について」の講演があり、その中で平成26年度の全国農地集積達成率が目標値に対し21%（長野県は約8%）と極めて低く、今後の農地中間管理事業の改善として「法制度の見直し」や「事業推進体制の見直し」などに

ついて、積極的な啓発活動も必要であると説明がありました。

事例発表では、飯山市農業委員会農政対策委員長丸山和義さんより、地元の伝統野菜「常盤牛蒡」で荒廃地解消に取り組んだ経緯が発表されました。「常盤牛蒡」に着目し荒廃地での栽培を得て、再圃場の規模を拡大し、お茶などの加工品にも取組み、現在飯山市の道の駅などでの販売を得るなど、当時の苦勞も伺えました。

最後の情勢報告では、長野県農業会議事務局長宮島明博さんにより、改正農業委員会法などを含む「農業協同組合等の一部を改正する等の法律案」についての報告がありました。

農業委員会制度の見直しがあり、委員の選出方法が従来長の任命制になる変更点などがあげられました。

この改正は8月28日の参院本会議で可決成立し、平成28年4月1日からの施行となります。



▲研修会の様子

編集後記

残暑が厳しいと思われたこの夏、気候もお盆過ぎから一転し気温が急速に下がりが秋雨前線による雨が続き、たことから、農産物の生育、収穫が心配されます。実りある秋になって欲しいと願っています。

今年3月に中野市農業委員の任期満了に伴う一般選挙が行われ、第一、第二選挙区、定数23名が無投票当選となり、選任委員8名と合わせて31名で第5代中野市農業委員会が構成されました。

農業委員会には農地部会、農政部会、振興部会の3部会があり、それぞれ事業計画に基づき、本誌にも記載したように既に研究会、視察等を行っています。「農業委員会だより」は年2回の発行を予定しています。ご意見等ありましたら農業委員会事務局へお寄せ頂きたいと思えます。

編集委員

- 小林 成雄
- 小林 利雄
- 清野 信之
- 浅野 清

全国農業新聞

経営とくらしを応援!!

を購読しませんか

全国農業新聞は、農業委員会系統組織が発行する農業総合専門誌です。

農政の動きをはじめ、農業技術や税制解説のほか経営・流通の最新情報などが満載です。

- 発行日 毎週金曜日
- 購読料 700円/月

お申し込みは、お近くの農業委員、または農業委員会事務局へご相談ください。

一人ひとりの農業者を応援する

農業者年金

国が支える 安心が大きくなる  
担い手積立年金

農業者の老後の備えは、国民年金プラス農業者年金が基本です。

農業者年金のご相談や加入の申し込みなどは、農業委員会もしくはJA中野市金融推進課へご相談ください。